

積木遊びから学ぶ「関係性」 子どもたちの創造力を育む 木製玩具メーカーの最高峰

童具館

「童具」を通じて、子どもも
大人も成長していく



同社の「童具」代名詞、
オリジナルの積木



「創造共育」を促す木製
玩具をデザイン・提案する
和久洋三社長(左)

童具館（大田区西糀谷、和久洋

三代表取締役、03・3744・

0606、<https://www.dougukan.com/>）は、玩具デザイナーである

和久社長が、子どもたちと子どもたちを取り巻く大人の「創造共育」の場として、1989年西糀谷に設立した。社長がデザインしたオリジナル木製玩具「童具」の販売を行うとともに、全国14カ所に展開する「和久洋三のわくわく創造アトリエ」の本部が併設されている。

童具はシンプルなお△□、基尺（サイズ）もほぼすべてのラインナップで統一されている。遊び方が1〜2種類しかないおもちゃが多い中、子どもが見て、触って、新たな遊び方を発見できるよう工夫された童具は、組み合わせで遊ぶことにより子どもたちが「関係性」

に気付き、その大切さを感じ取ることができるようになっていく。

併設するアトリエでは積木遊びに限らず、造形・絵画・料理の活動も行い、専任の講師が子どもたちの創造活動に寄り添う。「講師は指導するのではなく、子どもの創造活動のサポートに徹する」という、いわば「指導しない指導」方針で運営されている。子どもたちは、大人の顔色を意識する必要がなくなるだけで、集中し、目を見張る作品を次々と生み出すようになる。

また、同社では父母や保育者向けに「童具子育て講座」を毎年開催して、理念から実際の活動の流れまで細やかに教授するなど、子育て・教育に携わる全世界の人々に向けて情報発信を続けている。